



幼稚園保育の図を

高松宮妃殿下よりたまわりて

及 川 ふ み

昭和九年に出版された、日本幼稚園史に掲載されている——武村耕靄女史筆——東京女子高等師範学校附属幼稚園の実況（明治二十三年日本美術協会秋季展覧会に出品せられたものの稿）の幼稚園保育の図、絹本尺八極彩色の軸は高松宮家御所蔵であった。昨昭和三十年の秋、お茶の水女子大学創立八十周年を迎え、その記念祝典が挙行せられるにあたって、この期に、年久しく夢の様なのぞみをもち続けていた。この軸の御下賜の請願を校蔭、作楽両同窓会員の御力添えによって進めたところ、この願ききとどけられ、昭和三十年十二月二日、ありがたくも幼稚園保育の図は、御下賜いただけることに相なった。当日宮家よりこの軸を拝受し帰園して、附属幼稚園長室に掛け職員一同と共に感謝感激の裡に詳細拝見して当時の幼稚園の設備ならびに保育の実際を知ることができ感がい一入深いものがあった。

この幼稚園保育の図は上下四段にくぎられて

第一段 童話の図

兎と亀 の掛図を先生が指てきされながら説話されている状景

第二段 二十恩物で遊んでいる図

摺紙 つなぎ 輪ならべ 粘土 積木 板ならべ 豆細工 糸さし 数ならべ 切り紙 模様かき 織紙
文字かき など二人の先生が個人的に指導されている光景

第三段 唱歌の図

男女の二人の幼児が友達の前に出て、ペビーオルガンにあわせて歌をうたっているところ

第四段 幼稚図の玄関前の庭にて戸外の自由遊びの図

輪とばし かけっこ 毬あそび 草花いちりなどの情景

各場面とも、当時の附属幼稚園の保育の種々の実況を詳細にえがきあらわされて、白緑、群青などの岩絵具にて極彩色の精密な描写である。その上この軸が宮家におかせられての御保存誠によりしく、この極彩色の色など年ふれど一向に変色することもなく、幼児の遊ぶ二十恩物の細々としたる部分までも鮮明に観察することが出来るのは何とも幸なことである。

この図の附属幼稚園の建物は、明治十九年再建せられたもので、(明治九年十一月創立当初の建物は壊滅される)大正十二年九月一日関東大震災にあつて焼失せられるまでの園舎である。私はこの園舎に数年過したものととして、この保育の図に描写されている保育室内の有様、玄関前の光景などに記憶を新らたにして一入追懐するものが多いのである。例えば保育室内の黒板が二枚になっていてこれを上下するための黒板下の二つの金具、黒板下の腰板の桜花の彫刻、室内の隅の飾り三角棚、玄関の車寄、石段、玄関前の築山など

ただこの図にあらわれている幼児の服装、先生の服装、机、椅子その他の保育遊具などについては大正五年頃の附属幼稚園の状況とは全く異っていたもので、あつて、保育の内容の面で革新の様子が偲ばれる。種々の点より考えて、この保育の図は明治二十一年頃の附属幼稚園の面影であると思われる。

明治八年女子師範学校（東京女子高等師範学校前身）が設立せられるや、図画教師として本校に教鞭をとられる。当時、豊田英雄女史、関鑑三氏、松野クララ女史などと親交あり、又学校全体の図画の担当者として、附属幼稚園についての関係も深かった関係上、幼児保育図の執筆にも興味もたれたのであろう。

耕讜集 下（昭和六年十二月発行 嗣子武村正氏編）
女史の日記の一節に

『明治十二年二月三日

送 豊田君赴鹿兒島

耐寒花史試宮粧 乍向東風竹外香

為報精神宜倍爽 西南園裏弄春光

親友豊田女史文部の命を受け、幼稚園を鹿兒島に設立の為赴かるるによりて、半切に桜の画を画き、右拙作を併題す

二月六日

女教員数名と豊田氏の別杯を催す』

などによって附属幼稚園創設当時よりの豊田英雄女史とは親友の間柄にて、耕讜女史——しばしば附属幼稚園に赴かれ、当時の幼児の遊ぶ様、詳細観察されしことがうかがわれる。

松野クララ女史について

『明治十八年四月三日

祭日に付学校休業、午後菊地氏へ立寄り同氏と上野氏をともない松野氏へ行く。西洋服付の事を松野氏に承る。左にその覚へを記す

松野クララ君曰く

西洋服は冬着を十月頃より六月頃まで着してよろしきよし。其年々の季候により定りて無けれど大概七月頃より全くの夏着になる由（中略）冬服の地は糸織、越後紬、南部等の艶のあるものよろし。夏服は呂織、数寄屋縮等。ふだんは白真岡木綿よし、糸織地等紺地に紺甲斐絹の飾りなどなかなかよろし、云々』

又幼稚園について耕讀集に

『明治十七年三月十一日

万国博覧会へ学校生徒の画出品の件を命ぜらる

三月二十七日

生徒の画絹紙八枚、設色、水墨画、花鳥、山水、紙地四枚、同花卉、鉛筆、灰筆、用器画三十七枚。小学校、幼稚園遊戯の図二枚。右図画不残出来に付、教場幹事へ相渡す事

但し十一日に始めて出品事件起り、二十七日迄に十七日間、此間授業数多の時間を除くときはいとわづかの時間なり。此時間に対して右図画を集むるはなかなか混雑を極めしなり
このことなど昔も今日も大してかわりなしと見える。

三月二十九日

万国博覧会出品（本校、小学校、幼稚園）

悉皆文部省へ送付になりしよし。

明治二十六年十月十六日 月 雨

皇后陛下 女子高等師範学校へ行啓あらせられ、校長御先導にて左の順序を以て御通覧遊ばさる

一、附属幼稚園（凡午前十時より）

三ノ組 戸外遊戯 保母 梶 原 銚

五ノ組 唱歌 “ 清水 つる

- 四ノ組 昔物語 保姆 佐々木あさ
 一ノ組 粘土細工 高田 こう
 二ノ組 戸内遊戯 師範生徒
 分組 摺紙 師範生徒』

など皇后陛下行啓の節、附属幼稚園の保育の次第など詳細に日誌にのせられている。この分組というの後は後に分室となり、更にそれが第二部となり、今日の保育園の性質をもった保育研究の組であったことと考えられる。

耕蠶女史画道によく精進され、その道の達人として女子師範ならびに当時の名門諸家の子女に画道の教導につくされたのはもとよりであるが、以上耕蠶集(下)にのせられた日誌の節々に附属幼稚園の記事などかきとどめられて、我が幼稚園史上に多くの資料を提供せられたことは女史の大きな功績といわなければならない。我が国幼稚園保教が創始されて今日八十周年を迎えるあたり、思をあらたにしてその開設当時をはじめとし、その変遷を偲ぶとき関東大震災にあつて、その多くの資料を焼失した我が附属幼稚園に対して、その貴重な資料を提供されし、耕蠶集(嗣子 武村正氏 寄贈)小西信八氏、豊田英雄女史、下田多づ女史、倉橋惣三先生、新庄よしこ姉、の絶大な御好意を深謝すると共に一般保育界の後ににつづくものとして、日々のよき資料を後におくる貴のあることが痛感させられるのである。

尚この度の幼稚園保育の図高松宮家より御下賜に際して、特別に御配慮協力いただいた北白川房子様(旧周宮房子内親王) 小山光衛、井上瑞子、新庄よしこの諸姉の御厚意に対し、深く謝意を表する次第である。